

1 市 勢

狭山の歴史

太古

今からおよそ170万年前、狭山市域はメタセコイアなどの大木が生い茂る大森林で、アケボノ象と呼ばれる象の祖先が闊歩していた。

5万年ほど前になると富士山などの火山活動が活発になり、3万年ほど前にはその活動が激化し、その結果、いわゆる関東ローム層(赤土)と呼ばれる地層ができあがる。当市域に人が住み始めたのは、およそ1万3千年前のことで、約8千年前には、すでにこの地でも確固とした生活が営まれていた。入間川兩岸の台地には旧石器時代、縄文時代の遺跡が分布し、当時の石器や土器などの種々の生活用具が出土している。

古代

弥生時代・古墳時代前期の遺跡・遺物は未発見だが、今から1800年ほど前には低湿地帯に素朴な農耕文化が始まったと見られ、定住した人々をまとめる豪族も出現した。古墳時代後期以後、物部氏の勢力下にあったとみられるこの地方は、奈良・平安時代に移ると、高麗文化の影響を強く受けながらも、律令国家の地方行政と密接な関わりをもつようになる。中央で編さんされた諸文献にも市域周辺の地名と思われるものなどが散見される。この頃、すでにのちに鎌倉街道と呼ばれる入間道が、現在の市域を南北に貫いていた。

中世

鎌倉時代にはいと、鎌倉街道は当地方一帯の武蔵武士と鎌倉幕府との関連から一層重要性を増し、この頃から入間川は宿場として発展していく。新田義貞が鎌倉に攻め寄せたときも、鎌倉街道に沿って合戦がくり広げられた。室町幕府を開いた足利尊氏は、文和2年(1353)には次子基氏に鎌倉を出て入間川に陣を進めさせ、9年間入間川で鎌倉公方としての職務をとらせ、新田勢への警戒に当たらせた。このため基氏は「入間川殿」と呼ばれている。

このように、当時は当地方に関東の中心があったので、鎌倉時代から室町時代中期にかけて、入間川地区には人も集まり町が形成され市も立つようになり、鎌倉街道の交通の要衝として栄えた。こうしてこの時代に当地方は歴史の表舞台に登場するが、全国的に戦乱に明け暮れ、明日の命をも知れない時代であったため、庶民の間には仏教への信仰が高まり、当市にもそれをしのばせる板碑がたくさん残っている。

近世

江戸時代にはいと、日本の政治の中心が江戸に移り、世の中は落ち着きを取り戻し、

当地方は川越藩領や旗本領などに細分され、川越の後背地となった。川越藩によって、不老川下流から上流にかけての地域に新田開発が行われ、この地方は農業生産地としても飛躍的な発展を見せる。また、酒造や金貸しを業とした入間川の綿貫家は、この時代の商業活動を象徴する大きな商家として有名である。江戸末期から明治にかけては製茶・養蚕・浮織が盛んになり、川沿いの低地は水稻耕作が中心に行われ、市立てがあり、にぎわいを見せた。

近 代

明治時代にはいと、廃藩置県により当地方は入間県(県庁は川越町)に属したりしたが、明治7年(1874)には、入間、入曾、堀兼、奥富、柏原、笹井、広瀬学校が開設され、明治9年(1876)に現在の埼玉県域が確立したあと(当時の当市域の人口は1万2238人)、明治22年(1889)に町村制施行に伴い、入間川、入間、堀兼、奥富、柏原、水富の各村が成立、さらに明治24年(1891)には入間川村が町制を施行、近代国家の一地方としての骨格ができあがる。広瀬や入間川に絹織物が興り、また狭山茶の生産が盛んになる一方、明治28年(1895)には国分寺・川越間に鉄道が開通し、入間川駅(現狭山市駅)と入曾駅が設置され、明治34年(1901)には入間馬車鉄道(入間川・飯能間)、中武馬車鉄道(入間川・青梅間)が開通し、沿線は活気を帯びた。

大正時代には、動力機械が導入され、紡績業が盛んになった。

昭和初期には、徐々に東京の近郊農村地帯としての役割を担うようになってきた。昭和13年(1938)には陸軍航空士官学校が設立されたが、終戦と同時に閉鎖され、米軍が進駐し、ジョンソン基地となった。現在は、航空自衛隊入間基地となっている。

現 在

昭和29年(1954)7月1日、町村合併促進法に基づき入間川町、入間村、堀兼村、奥富村、柏原村、水富村の1町5か村が合併して市制を施行、狭山市が誕生した(人口3万1030人)。

当時は近郊農村的な田園都市であったが、昭和30年(1955)に狭山市工場誘致条例を制定、昭和37年(1962)には首都圏整備計画に基づく市街地開発区域の指定を受けて、昭和41年(1966)に川越・狭山工業団地が、昭和48年(1973)に狭山工業団地が完成し、県内トップクラスの工業都市として目覚ましい躍進を見せた。また、昭和40年代から50年代にかけて、民間の宅地開発や住宅・都市整備公団による狭山台団地、つつじの団地の造成などにより人口が急増し、都市化が進行した。

令和6年10月現在、約15万人の人口を擁する首都圏近郊の住宅・工業都市である。

位置及び地勢

狭山市は、埼玉県の西南部、武蔵野台地の一端に位置し、市の中央やや北西寄りには、南西から北東にかけて、名栗に源を發し荒川へと注ぐ入間川が貫流している。

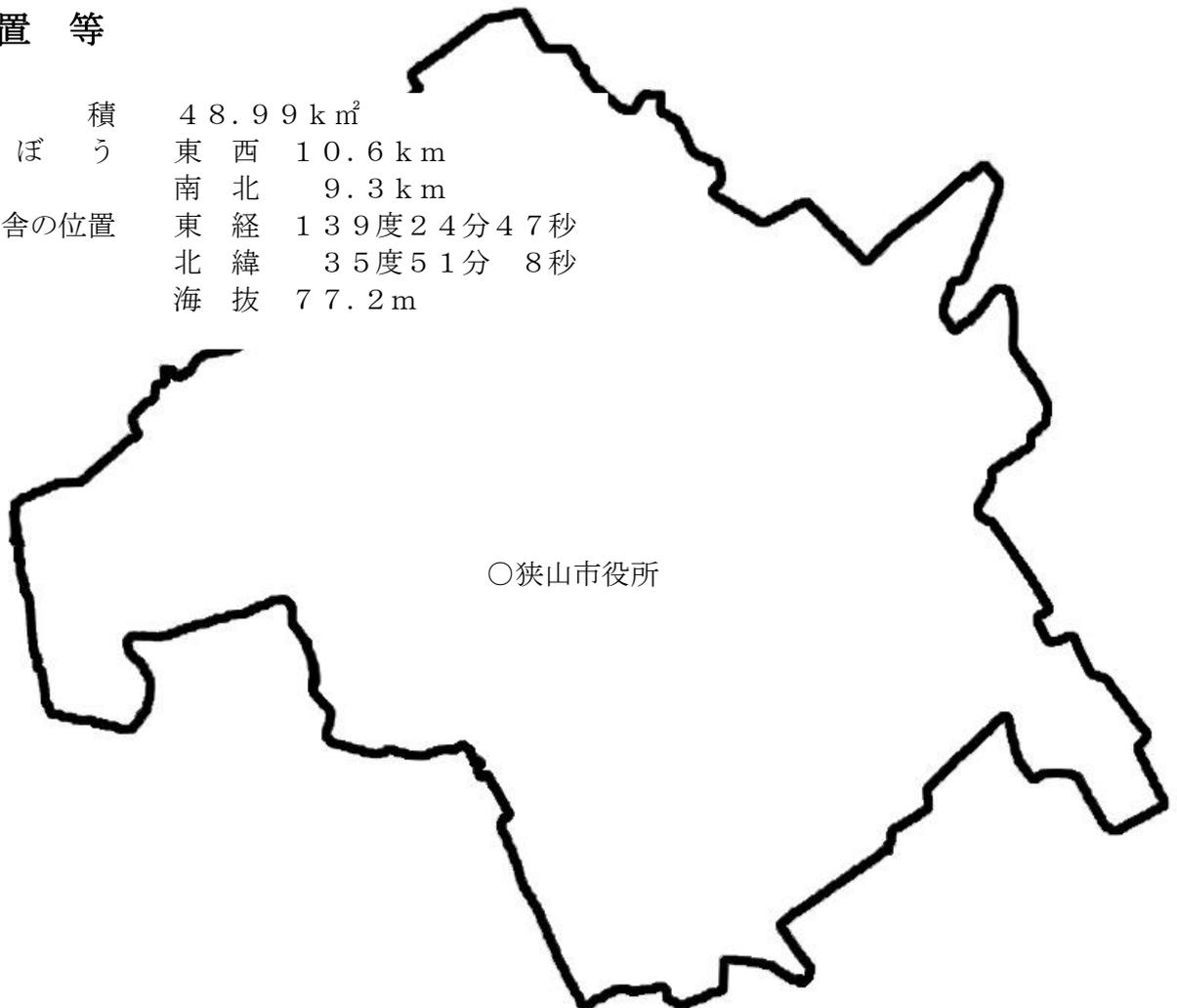
入間川両岸には河岸段丘が形成され、右岸は武蔵野台地、左岸は入間台地と呼ばれる台地となっている。流域は沖積層の低地帯が広がり、その他は比較的平坦な洪積層の台地となっている。

市内には、なお雑木林が点在し、北方に日光・那須、西方に秩父の各連山、西南方には遙かに富士山を遠望することができ、武蔵野の詩情を豊かに残す土地である。

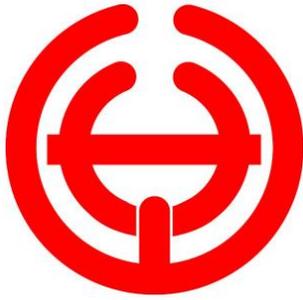
市域の形はおおよそ菱形をなし、東部を川越市に、北部を川越市・日高市に、西部を入間市・飯能市に、南部を所沢市に接している。

位置等

面積	48.99 km ²
広	東　西　10.6 km
	南　北　　9.3 km
市庁舎の位置	東　經　139度24分47秒
	北　緯　　35度51分　8秒
	海　拔　77.2 m



市 章



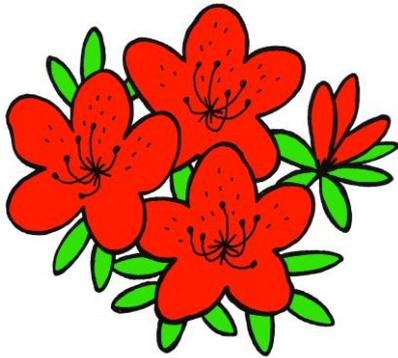
中央に片仮名の「サ」を置き、周囲に山を配して狭山を象徴する。

中央の「サ」は常に中心の安定を保持し、山を以つて円く囲んだのは市民共同一致して円満なる発展を意味する。

(昭和 29 年 12 月 18 日制定)

狭山市の花、木、鳥

自然に親しみ、自然愛護の心を深めるため、市の象徴として次の花、木、鳥を狭山市の花、木、鳥に指定する。(昭和 49 年 10 月 26 日制定)



市の花 つ つ じ

つつじは、市内の山野に多く自生しています。

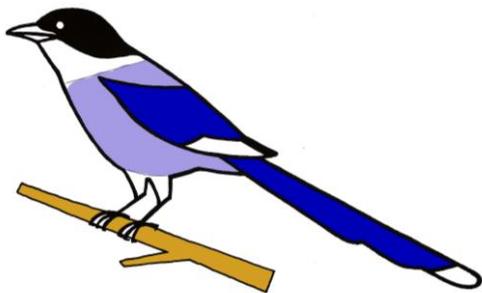
また、古くから稲荷山公園のつつじとして、親しまれた花であるところから、市の花として決まりました。



市の木 茶 の 木

茶の木は、市の印象づけに一番ふさわしい常緑低木です。

また、狭山茶は鎌倉、室町時代から銘園五場の一つとして名声をうたわれ、古くから市民が愛着をもちつづけているところから、市の木として決まりました。



市の鳥 お な が

おながは、市内に一番多くみられ林の中に群をなしていますが、庭園や人家付近の立木にもよくきます。

また、尾の長い姿や色が優美なところから、市の鳥として決まりました。

狭山市歌

尾崎 勇治 作詞

関口 重夫 作曲

明るく、のびのびと (♩=108)

みどりをうつすかわーもにはつつ
 じのはなびらあーやをなす
 いるまのながれはれきしをのせて ひらくみらいの ゆめはこぶとも
 にーいきよこのまちーであー
 あーさやーまわれらのさやまし

一、緑をうつす 川面には
 つつじの花びら あやをなす
 人間の流れば 歴史をのせて
 ひらく未来の 夢はこぶ
 共に生きよう この都市で
 ああ 狭山 われらの狭山市

二、渡のそよ風 野をぬけて
 窓辺におくぬ 茶のかおり
 舗道の並木に くぬぎの森に

三、鳥の歌声 愛を呼ぶ
 共に謳おう この都市で
 ああ 狭山 われらの狭山市

けやきの梢 ビルの上
 輝くブルーの 空がある
 見上げるひとみに 希望はもえて
 富士に秩父に 雲が湧く
 共に進もう この都市で
 ああ 狭山 われらの狭山市

狭山市民憲章

わたくしたちは、入間道いりまじの昔から、武蔵野の
 大自然と入間川の清流にはぐくまれた狭山の
 市民です。

わたくしたちは、郷土を愛し、誇りをもって
 緑と豊かな近代都市を築くため、ここに憲章を
 定めます。

- 一、秩序と規則を守り、
平和なまちをつくりましょう。
- 一、教養を深め、
文化の高いまちをつくりましょう。
- 一、自然を愛し、
きれいなまちをつくりましょう。
- 一、勤労を尊び、
健康で豊かなまちをつくりましょう。
- 一、人権を重んじ助け合い、
明るいまちをつくりましょう。

(昭和49年10月26日制定)

国勢調査人口の推移

各年10月1日現在

年	世帯数	人 口				
		総 数	男	女	増 減	増加率(%)
昭和35年	6,333	32,785	16,369	16,416	1,444	4.61
40	8,726	40,183	20,678	19,505	7,398	22.57
45	15,153	60,886	32,121	28,765	20,703	51.52
50	27,230	98,548	51,148	47,400	37,662	61.86
55	36,571	124,029	63,675	60,354	25,481	25.86
60	43,777	144,366	74,752	69,614	20,337	16.40
平成 2年	50,141	157,309	80,847	76,462	12,943	8.97
7	54,341	162,240	82,718	79,522	4,931	3.13
12	57,285	161,460	81,958	79,502	△ 780	△ 0.48
17	59,211	158,074	80,072	78,002	△ 3,386	△ 2.10
22	61,039	155,727	78,637	77,090	△ 2,347	△ 1.48
27	62,028	152,405	76,580	75,825	△ 3,322	△ 2.13
令和 2年	63,776	148,699	74,178	74,521	△ 3,706	△ 2.43

産業分類別15歳以上就業者数

令和2年10月1日現在

産 業 (大分類)	総 数		男	女
	就業者人口	構成比		
総 数	68,144	100.0%	38,899	29,245
第 1 次 産 業	1,184	1.74%	691	493
農 業	1,175		685	490
林 業	7		5	2
漁 業	2		1	1
第 2 次 産 業	16,116	23.65%	11,762	4,354
鉱 業	10		9	1
建 設 業	4,264		3,574	690
製 造 業	11,842		8,179	3,663
第 3 次 産 業	48,645	71.38%	25,284	23,361
電気・ガス・熱供給・水道業	149		119	30
運 輸 ・ 通 信 業	7,583		5,693	1,890
卸 売 ・ 小 売 業	9,895		4,589	5,306
金 融 ・ 保 険 業	1,299		503	796
不 動 産 業 ・ 物 品 賃 貸 業	1,631		1,055	576
サ ー ビ ス 業	24,492		10,452	14,040
公 務 (他に分類されないもの)	3,596		2,873	723
分 類 不 能 の 産 業	2,199	3.23%	1,162	1,037

資料：国勢調査

狭山市交通安全都市宣言

時代の進運に伴い交通車両の激増とそのスピード化が文化の進展、国民生活の向上に多大な役割を果たしつつある反面道路環境整備の遅滞、交通道義の低調、運転者並びに歩行者の交通ルール背反等に起因する交通事故発生は増加の一途をたどっている。

本市の交通事情も又、ふくそうを極め特に国道第16号バイパスは交通量、交通事故発生件数共、県下の上位を占め最早このまま放置できない実情である。

本市は5万市民の悲願をこめて、人命尊重と市民生活の安全確保の観点に立ち、交通事故の絶滅を期し、一致協力して遠く、かつ、至難な交通安全へのいばらの道をたゆみなく、ねばり強く、突き進んでゆくことを議会の総意をもって誓うものである。

右宣言する。

昭和42年8月18日

狭山市平和都市宣言

清らかな入間川の流れ、緑豊かな武蔵野の自然の中で、安らぎに満ちた平和な日々を送ることが、私たちの願いです。

私たちは、再び、戦争によって平和なまちが脅かされることのないよう、あらゆる国の核兵器が廃絶され、世界の恒久平和が確立されることを強く望みます。

狭山市は、平和で豊かな社会を築き、次の世代に引き継ぐため、平和を願う心を結集し、市制施行35周年を期して、ここに平和都市を宣言します。

平成元年12月22日

すこやかさやま宣言

身も心もすこやかでありたい、それはいつにかかわらぬ私たちの願いです。

豊かな自然の恵み、知恵と情緒に培われた文明や文化、そして情愛細やかな共同体は、これまで私たちの「からだ」と「こころ」を、どれほど育ててきたことでしょうか。

ここ狭山には、入間川の清流や武蔵野の緑野、歴史を偲ばせる伝統行事になごやかな交わりが、いまなお息づいています。

このさわやかで詩情漂う風土を尊び、そこに家族共々くつろぎ、時に自然散策・スポーツ、時にレジャー・教養に親しむなら、私たちの願いはきっと叶うことでしょうか。

そのような想いをこめ、ここに「すこやか都市さやま」を宣言します。

平成4年11月1日

『みんなでつくる すこやかな うるおいのまち わが狭山』

狭山市・狭山市健康づくり推進市民会議

『この地球、資源は有限、未来は無限』

—リサイクル都市・狭山—

私たちは、豊かさを追求するあまり、地球の恵みへの感謝を忘れ、大量生産、大量消費、大量廃棄の暮らしを続けてきました。

このままでは、資源はやがて底をついてしまいます。

子供たちの歓声や、小鳥のさえずり、

そして私たちの住む武蔵野の光と風が消えてしまわないうちに、

ちょっと立ち止まり、これまでの暮らしを見直し、

限りある地球の資源と自然を、つぎの世代に伝えていくことを考えましょう。

それはものを生かして使うことから始まります。

これまでの使い捨ての暮らしをやめ、

「一人ひとりが、足元から」を合言葉にリサイクルを実践しつつ、

自然とのふれあいを大切にする感性豊かなライフスタイルを築いていくことを、

ここに誓います。

宣 言

緑と健康で豊かな文化都市・狭山を

つぎの世代に引き継ぐため、

私たちは、限りある地球資源を大切にしつつ、

自然と調和したリサイクル型社会の実現をめざします。

1996年(平成8年)11月2日

狭 山 市

埼玉県西部地域まちづくり協議会 「ゼロカーボンシティ」共同宣言

～2050年 二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

近年、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加を要因とする地球温暖化の進行により、世界規模で自然災害が増加しています。今後、さらなる頻発化、激甚化が予想されており、環境に対する社会の意識や関心が高まるなかで、脱炭素社会に向けた動きが加速しています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度より十分低く保つとともに、1.5度に抑える努力を追求すること」とされ、また、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

環境省では、こうした目標の達成に向けて、「2050年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが公表した自治体」を「ゼロカーボンシティ」として国内外に広く発信するとともに、全国の自治体へ表明を呼び掛けています。

こうしたことから、所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市を構成市とする埼玉県西部地域まちづくり協議会では、将来にわたって、健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいくため、5市の特徴を活かしながら、市域を越え、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指すことを宣言します。

2021年(令和3年)2月15日

狭 山 市
所 沢 市
飯 能 市
入 間 市
日 高 市

姉 妹 都 市

- 都 市 名 大韓民国 慶尚南道（きょんさんなむど） 統營（とんよん）市
姉妹都市締結当初は、忠武（ちゅんむ）市
* 忠武市は、平成7年（1995年）7月1日に統營郡と統合し、統營市として発足。統營市は、本市と平成7年（1995年）10月1日に姉妹都市血縁関係を継承。
- 提 携 日 昭和48年（1973年）7月4日
- 位 置 東経128度23分51秒 北緯34度50分05秒
釜山（プサン）市の南西約120km
- 人 口 約12万9千人（2020年現在）
- 面 積 239.76 k m²
- 特 徴 水産業が盛んな港町で、いわしやアワビ等の豊富な海産物に加え、螺鈿（らでん）漆器などの工芸品も有名。年間を通して温暖な気候であり、冬は暖かく夏は涼しいことから、リゾート地として人気があります。風光明媚な景勝地が多く、無形文化財を有するなど、芸術文化の面でも有名な都市。
- 締結の経緯 昭和47年（1972年）3月、忠武市が閑麓開発東京駐在事務所を通じ、本市へ茶栽培について協力を要請。同年8月、忠武市長が本市の茶の栽培状況を視察に訪れた際、本市長と会談し、茶栽培を通じた姉妹都市結縁について原則的合意を見た。

狭山・忠武姉妹都市結縁宣言書

日本国埼玉県狭山市と大韓民国慶尚南道忠武市は、
姉妹都市として産業・文化・観光等の交流をはかり、
もって両市のよりよき繁栄と、友好親善を深めること
を念願して姉妹都市関係結縁を締結し、ここに宣言する。



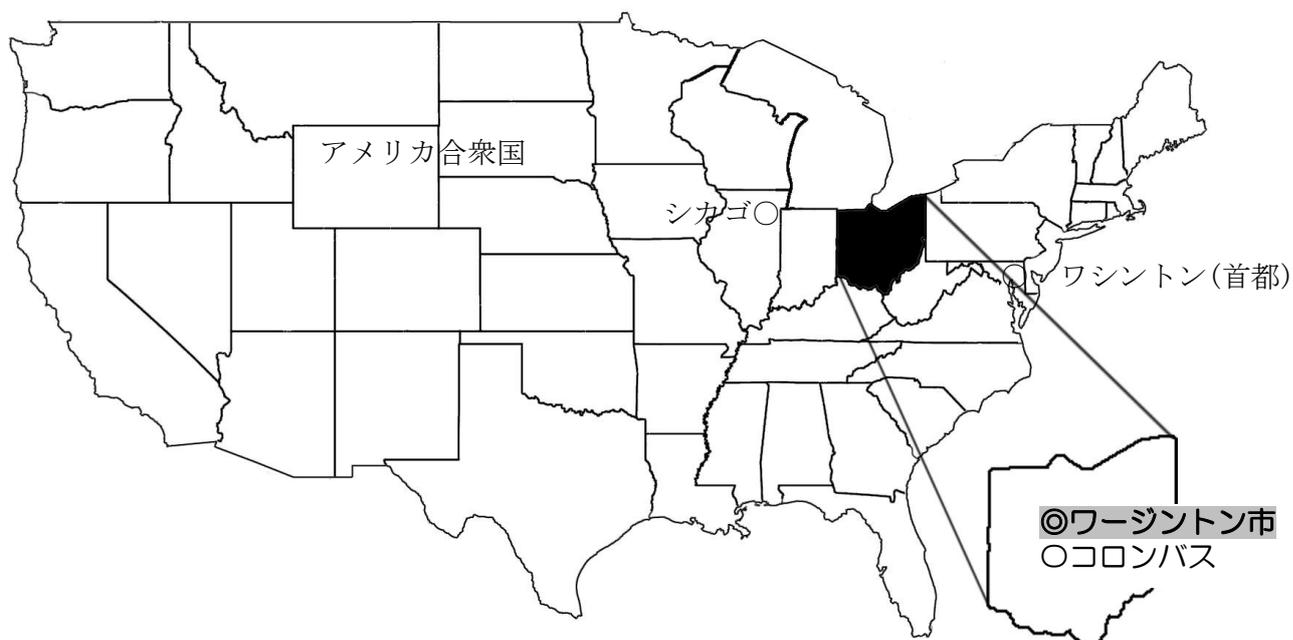
姉 妹 都 市

都 市 名	アメリカ合衆国 オハイオ州 ワージントン市
提 携 日	平成11年（1999年）11月1日
位 置	西経83度01分15秒 北緯40度05分29秒 シカゴの南東約500km
人 口	約1万4千人（2020年現在）
面 積	14.7k m ²
特 徴	オハイオ州の州都コロンバスの衛星都市であり、コロンバス空港から車で約20分の距離にある緑あふれる落ち着いた町。1803年、移住してきた人々により開拓され、200年以上の歴史がある。財政は豊かで、犯罪率が低く、町並みには古き良きアメリカが残されている。
締結の経緯	英語圏都市との交流の実現を目指し、姉妹都市検討委員会で検討を重ね、候補都市の絞り込みを行った。その結果、既に狭山市国際交流協会と交流実績のあったワージントン市に決定した。

姉妹都市協定書

我々、日本国埼玉県狭山市市民並びに、アメリカ合衆国オハイオ州ワージントン市市民はここに、末永い国際関係の樹立を目的とし、姉妹都市関係となることを合意する。

我々の関係は、文化、教育、スポーツ、ビジネスの分野の交流を通じ、強固なることを堅く確信する。この両市間の関係は、市民の友好親善と理解の促進に貢献し、両市における深い協調を導き、もって、より安定し、開かれた世界の繁栄に寄与するものである。



友好交流都市

都市名	中華人民共和国 浙江（せっこう）省 杭州（こうしゅう）市
提携日	平成8年（1996年）7月8日
位置	東経120度10分00秒 北緯30度15分00秒 上海の西南約180km
人口	約1,200万人（2019年現在）
面積	16,596 k m ²
特徴	2200年余りの歴史を持つ中国8大都市のひとつで、浙江省の省都として中国東南地域の政治、経済、文化の中心地である。緑に囲まれ、美しい景観で有名な世界遺産の西湖をはじめ、名所旧跡が点在し、世界中から多くの人々が訪れている。特産品はシルクや龍井（ろんじん）茶などがある。龍井茶は中国十大名茶の中でも特に優れているといわれているお茶である。



都市名	新潟県 中魚沼郡 津南町
提携日	平成9年（1997年）1月30日
位置	東経138度39分09秒 北緯37度00分51秒 湯沢町の北西約30km
人口	8,598人（2024年3月現在）
面積	170.21 k m ²
特徴	長野県境に位置する豪雪地帯にあって、春はかたくり、夏はヒマワリ、秋には紅葉、そして冬には一面の雪景色と、四季折々の風景を楽しむことができる自然に恵まれた町である。特産品は、きのこ類や雪下（ゆきした）にんじんをはじめ、ユリ科のカサブランカなどが有名である。

